

2006年業績

【論文】

1. 原著論文[英文]

- 1) Yoshida, Y., Ganguly, S., Bush, C.A., and Cisar, J.O. Molecular basis of L-rhamnose branch Formation in streptococcal coaggregation receptor polysaccharides. *J. Bacteriol.* 188: 4125-4130 (2006)
- 2) Ota, F., Ota, M., Mahmud, Z.H., Mohammad, A., Yamato, M., Kassu, A., Kato, H., Tomotake, H., Batoni, G., Campa, M. Serological diversity demonstrable by a set of monoclonal antibodies to eight serotypes of the mutans streptococci. *Caries Res.* 40: 6-14 (2006)
- 3) Yoshida, Y., Palmer, R.J., Yang, J., Kolenbrander, P.E., Cisar, J.O. Streptococcal receptor poly-saccharides: recognition molecules for oral biofilm formation. *BMC Oral Health* 6(Suppl 1) : 1-9(2006)

【学会】

1. 国内学会発表

- 1) 斉藤弘子、佐藤栄作、加藤裕久、村井繁夫 HPLC-ECD を用いた血清カテコールアミン高速測定法—アルミナ抽出およびクロマトグラフ条件の改良. 第79回日本薬理学会年会. 2006年3月. 横浜. (2006)
- 2) 吉田康夫、伊東俊太郎、國松和司、加藤裕久 改変多糖の作製と解析による口腔レンサ球菌の3G型レセプター多糖合成機構の解明. 第48回歯科基礎医学会学術大会. 9月. 横浜. (2006)
- 3) 伊東俊太郎、吉田康夫、國松和司、加藤裕久 *anginosus* グループに属するレンサ球菌の硫化水素産生能. 第48回歯科基礎医学会学術大会. 9月. 横浜 (2006)
- 4) 山田ありさ、吉田康夫、伊東俊太郎、國松和司、加藤裕久 口腔バイオフィーム形成に關与する細胞壁多糖を保有するレンサ球菌の検出. 第48回歯科基礎医学会学術大会. 9月. 横浜 (2006)
- 5) 田村晴希、山田ありさ、加藤裕久 *Streptococcus cricetus* のデキストララーゼ遺伝子(dex)の同定と機能解析. 第48回歯科基礎医学会学術大会. 9月. 横浜 (2006) .

【講演】

- 1) 吉田康夫 バイオフィーム形成に關する口腔レンサ球菌の菌体表層多糖について 岩手医科大学歯学会第61回例会. 2月. 盛岡 (2006).
- 2) 吉田康夫 Streptococcal Coaggregation Receptor Polysaccharide (RPS) Related with Oral Biofilm Formation 九州大学歯学部学内セミナー. 2月. 福岡 (2006).
- 3) 吉田康夫 初期バイオフィームの形成に關与する口腔レンサ球菌のレセプター多糖 愛知学院大学歯学部学内セミナー. 12月. 名古屋 (2006).

【外部資金】

1. 文部科学省・科研費

- 1) 基盤研究(C) 2005-2007年度「糖質溶液による口腔洗淨が経鼻管栄養患者の口臭に及ぼす影響」吉田康夫—研究分担者(代表:岸光男)

2. その他の研究費

- 1) 独立行政法人科学技術振興機構シーズ発掘試験 2006年度「多糖を利用した歯垢形成抑制剤の開発」吉田康夫—研究代表者

- 2) 主陵会学術振興会研究助成（学内公募研究費）2006-7 年度「バイオフィルムの形成に関与する口腔レンサ球菌由来レセプター多糖の合成と機能の解明」吉田康夫—研究代表者